

令和7年度 図画工作科 授業改善推進プラン

大田区立千鳥小学校

I 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・児童の発達段階に合わせて、用具や材料の提示の仕方、使い方の指導を工夫することにより、ほとんどの児童が主体的に活動に取り組み、各学年に応じた知識・技能を身につけることができた。
- ・手や体全体を働かせて材料や用具にかかわりながら表したいことを見付け、つくりだす喜びを味わうことができた。

(2) 課題

- ・発想が思い浮かばないことや、失敗をすることへの不安から、課題によっては活動がなかなか進められない児童もいる。
- ・自分なりの活動の見通しがもてないことにより、課題(活動)が時間内に終えられない児童がいる。

2 授業改善のポイント(観点別)

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・のりやはさみの使い方、粘土の扱い方など、基本的な道具の使い方を身に付けさせるために、繰り返し活動に取り入れながら技能の定着を図っていく。	・題材によっては、イメージをふくらませることができず手が止まってしまう児童もいるため、発想したことを自分なりに形にしたり表現したりする経験を積み重ねる。	・児童が「自分もできそう」「やってみたい」と思える題材の提示や分かりやすい導入を行うようにする。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・児童が様々な材料や用具を使えるようにするため、表現方法を試しながら活動ができるようにする。	・児童が、自分の表したいことからさらに発想や見方や感じ方を広げることができるよう、活動の流れや、発想の広げ方について指導する。	・児童が学習のねらいに向けて活動を深めることができるよう、活動の導入時に分かりやすく伝えるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・これまでの経験を生かしつつ、材料や用具を自分の表現したいように活用することができるよう、材料・用具の特徴やよさについて気付けるように指導を行う。	・これからも、自分や友達の考えは大切にしていけるよう指導していくとともに、形や色、材料の特徴や、構成の美しさなどの視点を提示したり、児童から意見を出させたりし、活動をより深めることができるよう指導する	・児童が、自分の思いを大切にしながら、それぞれの違いを認め合い、自分の表現をより豊かにしていくことができるよう、互いの作品のよさを認めたり、自分の活動を振り返ったりする機会を設ける。